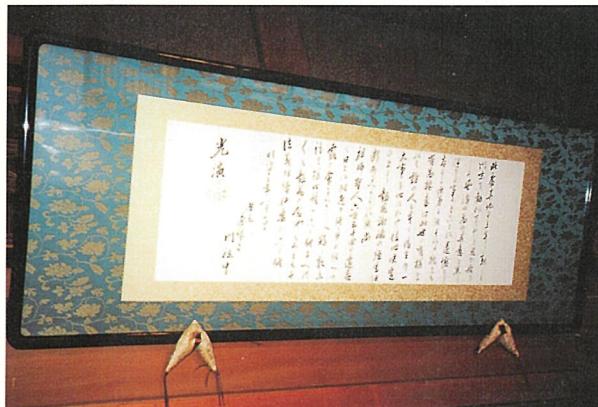


広尾町指定文化財
しょうにょしょうにんしゃくそく
彰如上人御消息

所在地 広尾町西一条一〇丁目
管理者 広縁寺

指定年月日 平成二〇年一二月二一日



広尾町で二番目に古い、明治二十七年（一八九四）開教の浄土真宗大谷派「廣縁寺」の寺宝として保存されている。本願寺第二十三世彰如上人が廣縁寺の門徒に宛てた書簡である。

彰如上人は二十二世現如上人の二男として生まれ、明治四十一年（一九〇八）法主となつた。名を光演、俳句をたしなみ、俳号を「句仏」と称したことから「句仏上人」と門徒から慕われていた。彰如上人はたびたび北海道巡教の旅で来道し、十勝には明治四十二年（一九〇九）八月に入り帶広を訪ねている。次いで四十三年八月には海路、釧路を訪れ、帰途海路を広尾にとり、日高・浦河を巡教する予定であつたが、釧路から広尾に向かう中、たまたま風浪が激しくなり、広尾港への上陸が不可能となつた。その時船中でしたためたのが御消息である。

小舟で出迎えにむかつた住職伊藤為淨師ら門徒たちも、上人の小舟への乗船がむずかしいことを知り、空しく帰港したが、御消息は次の上陸地である浦河から広尾の門徒に宛てたものとみられる。御消息の日付は八月十四日となつていて。御消息原文は次の通り、（筆者解説）

「此度其地に立寄り親しく門末を権化せばやと思ひ居りしに風浪の為其意を果し得ざる事まことに遺憾に存ずる次第に候、それに就ても有為

転変は此世の有様なれば誰の人も早く後生の一大事を心にかけ信心決定の上より報思謝徳の經營油斷あるべからず候尚人六百五十回の遠忌も日々に近き候ことに候へば露の命を永らへ賑々敷來詣候様心懸らくべく候、かえすがえすも報思の念仏もろとも丹法義相続肝要たるべく候。」

明治四十三年八月十四日

広尾

廣縁寺

門徒中

光演

印

御消息とともに御巡教の隨行長南條文雄（仏教学者・大学教授・著書多數あり）の書簡も同封され、現在も保存されている。

彰如上人は、このあと昭和二年（一九二七）に広尾を訪れ、十八年ぶりに広尾の門徒に約を果している。この時の御消息（札状）も保存されている。

大正十四年（一九二五）真宗大谷派では民法の処置で彰如上人の僧籍を削除した。この僧籍削除に反対した門徒は、彰如上人の僧籍復活運動を起し、昭和四年（一九二七）九月に東北海道の大谷派僧侶が帶広公会堂に集まり「東北海道大谷派僧侶有志大会」を開き、本山に抗議文をつきつけるなどの騒ぎもあった。このことは彰如上人の門徒から慕われていたことの一証左であろう。

「注」

法主^{ほつす}＝宗派の首長で、法会^{ほうえ}の主宰者をさし、浄土真宗では管長の称である。

御消息^{ごしょくじ}＝消は死を意味し、息は生きる意。動静、安否、文通をすること、その手紙のこと。

権化^{ごんげ}（權化）＝神仏が衆生済度に、仮の姿で現わすこと。

有為転変^{ういへんぺん}＝この世の事は移り変わりやすいこと。この世は因縁^{いんねん}で仮にできている。

後生^{こうじやう}＝死後再び生まれかわること。

信心決定^{しんじんけつけいじょう}＝神仏の信仰が篤く、仏の救済を信じて疑わない心が動かないこと。

租師聖人^{そしじょそうじん}六百五十回忌^{ろくひゃくごじゅうかい}＝浄土真宗の開祖親鸞聖人が亡くなつて六五〇年の忌日。

賑々敷來詣^{にぎにぎしきらいゆ}＝沢山の人々が賑やかにお詣りに来ること。